様式第２号(第７条関係)

会 議 結 果 報 告 書

令和６年９月12日

会議の名称	令和６年度　第１回舞鶴市文化振興審議会
種別	■附属機関　　□懇話会等
開催日時	令和６年７月11日（木）13時30分から15時00分
開催場所	舞鶴市役所別館６階　612会議室
出席者	＜委員＞　中川委員長、直田副委員長、浦岡委員、鈴木委員、 立道委員、田中委員、中西委員、福本委員 ＜事務局＞　福田副市長他６名
議題	1　開　会 2　議　題 （1）令和６年度事業について （2）その他
公開の区分	■公　　開 □部分公開
傍聴者数	2　名
審議結果及び主な意見等	会議録のとおり
会議録の作成様式	□詳　細　　■要　約
備考	

担当課	舞鶴市　生涯学習部　文化振興課 TEL　（　0773　）　66　－　1019

令和６年度第１回舞鶴市文化振興審議会会議録

日　時：令和６年７月 11 日（木）13：30～15：00
場　所：舞鶴市役所　別館６階　612 会議室
出　席：（委員）　中川委員長、直田副委員長
　　浦岡委員、鈴木委員、立道委員、田中委員、中西委員、
　　福本委員
　　（事務局）福田副市長、福田部長、三方次長、松本担当課長、奥本館長
　　後係長、森下
欠　席：上杉委員、鎌野委員
傍聴人：２人

会議内容：

１　福田副市長開会挨拶

２　委嘱状交付
　任期：令和６年４月１日～令和８年３月 31 日（２年間）

３　委員及び事務局紹介

４　委員長及び副委員長選出
　・委員長は、委員の互選により中川委員を選出
　・副委員長は、委員長の指名により直田委員を選出

５　議題
（1）<u>令和６年度の取組みについて</u>

（事務局説明）【資料 1-1、1-2】【資料２】
（委員からの主な質問・意見・確認事項等）

● 事業 No.１「ロビーコンサート」
　本来の趣旨は、音楽活動をしている団体等に発表する機会を提供することではなく、市民に質の高い演奏を鑑賞してもらうこと。再認識してほしい。

● 事業 No.５「舞鶴市展」
　・開催期間が長いという声もある。期間短縮してはどうか。
　・１日の展示時間を延長し、夜間しか来場できない方に来てもらいやすくしてはどうか。
　・展示後の作品が日の目を見るような機会があれば良いと思う。

- 事業No.15「文化財保全補助金」

  昨年度は予算が足りないということが反省点としてあがっていたが、今年度は予算が減額となっている。昨年度の反省が活かされていないのではないか。

  ⇒（事務局）当該補助金の予算は、自治会や保存会に次年度の計画調査を行い、それに応じた予算としている。

- 事業No.34「アート・プログラム・デリバリー」

  ・プログラムのパッケージ化や、1人に対し複数回（現在は1回）の実施も検討してはどうか。

- 事業No.35「地域創造助成おんかつ事業」

  ・障害者施設など施設に属している人とは繋がりやすいが、医療センターのデイケア患者等は世間に背を向けがちであり、文化に触れる機会を望んでいるが求められずにいる人が多いと聞く。どこにも属していない人たちを取りこぼさないために、医療センターに働きかけ、連携してはどうか。

  ・事業を実施する際、音楽（楽器）を決定した後に対象者を決定すると音楽（楽器）と対象者にミスマッチが起こる場合がある。対象者を先に決定し、対象者がどんな音楽を求めているのかを聞き取った上で実施するべき。

- 事業No.37「スタインウェイを弾いてみよう」

  ・良い事業だと思う。募集枠を広げてはどうか。

  ・この事業はまさに現場から出た企画。現場の発想や意見はとても大事で、何かを考えるときは、やはり一番現場に近い人たちの意見を聞きながら実施するべき。

- 行政だけで実施する事業ばかりではなく、市民を巻き込んだ住民自治の観点を踏まえた事業を構成するべき。

- 事業全体を通して、託児・一時保育対応可能な事業が少ない。大事な支援の一つであるため、対応可能な事業を増やしてほしい。

- 第2次舞鶴市文化振興基本計画の重点項目5「アートマネジメント・コーディネート人材の育成」について

  ・どのようなことが求められていて、どのようなものを提供したらよいのかをマネジメントできる人材が必要。行政の職員もマネジメント研修を受けていくべき。

  ・少数のマネージャーだけでは各分野に適したマネジメントができない。様々なマネージャーが必要。行政だけでは補えないため、住民自身にお願いしていくべき。

  ・自立的に文化活動を行う団体を把握するため、担い手や団体のリストを作成し、データ化してはどうか。

  ・横浜等のような大都市では、お金と組織があるためすでに文化財団やNPOに委託しているが、舞鶴くらいの都市では、どのようなコーディネートのシステムにすべきか、そろそろ考える必要がある。それを住民の力を借りてやり

たいようであれば、その住民のエネルギーをどのように活用すれば組織ができるか考えるべき。

・舞鶴市総合文化会館の照明音響設備に関する講座を開催してはどうか。市民に与える事業だけでなく、市民が手伝いたいと思えるような方向性の事業も必要。

・アートマネージャー人材の確保及び育成をするためにどのようなシステムづくりをすれば良いのか、各施設の代表者や文化協会を交えて集中討議を実施してはどうか。

- 親和性の高い事業と事業を繋いで相乗的に膨らんでいくような、草の根を育てていく戦略性のある観点もあれば良い。
- 文化の分野を超えて、学校や幼稚園など様々な団体等と接点を持てるようなプラットフォームや語り場があれば良いと思う。